

1. 書誌情報

駒村康平『日本の年金』岩波新書、2014 年

2. 目次

- 序章 年金制度を取り巻く状況
 - (1) 人口は、どうなるのか
 - (2) 2025 年の日本社会の姿
 - (3) 雇用の変容
 - (4) 格差の拡大
 - (5) 安定した社会保障財源の確保
- I 章 年金制度は、いま
 - (1) 公的年金の役割
 - (2) 厚生年金の給付と負担
 - (3) 2012 年の一体改革にともなう年金改革
 - (4) 新たな課題
- II 章 年金制度が直面していること
 - (1) 先進国での共通の問題
 - (2) 年金財政の変化
 - (3) 未納者の増加
 - (4) 各国の年金制度
 - (5) 自営業の年金制度は、なぜ別の制度なのか
- III 章 これからの年金制度
 - (1) 制度設計をどうするのか
 - (2) 現行制度維持か、抜本改革か、公的年金廃止民営化か
 - (3) 高齢者への最低所得保障
 - (4) 抜本改革は可能か
 - (5) 2014 年の年金財政検証
 - (6) 支給開始年齢の引き上げという選択肢
 - (7) 年金積立金の運用と私的年金
 - (8) 改革の構想
- 終章 今後の社会保障制度を展望する

3. 著者紹介 駒村康平（こまむら こうへい）

1964 年生まれ。2007 年より慶応義塾大学経済学部教授。

著書には『福祉の総合政策』（創成社、2001 年）

『年金はどうなる - 家族と雇用が変わる時代』（岩波新書、2003 年）

『大貧困社会』（角川 SSC 新書）などがある。

4. 選定理由

1. 年金制度について考える
2. 年金の種類について詳しく理解する
3. 日本の年金制度の歴史を知る
4. 日本の年金制度の現状について把握する
5. 他国の年金制度について理解する
6. 年金制度の課題を明らかにする
7. 年金未納者が増加する理由を理解する
8. 国民年金の保険料を払えない人はどうすればいいのか考える
9. 年金が果たす役割を再確認し、社会保障制度のこれからを考える
10. 少子高齢化が進んでいる中で、年金制度は今後どうなっていくのか考える